

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 愛あい	評価実施年月日	平成 20年 12月 18日
評価実施構成員氏名	所長 棚田 節子 管理者 蔦井 睦美 計画作成者 郷古 千恵子		
記録者氏名	蔦井 睦美	記録年月日	平成 21年 1月 7日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念の中に「地域や自然に触れ合いながら、ご家族や町の人々との行き来を大切にいたします」との項目を設けている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内に掲示することを通し、職員に周知徹底している。新人職員に対し、オリエンテーションを行ない理解を促している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>基本理念等をホーム内に掲示している。又パンフレットや重要事項説明書等にも記載し、入居者およびご家族にも文書を見ながら説明し、理解を得ている。地域の町内会に入会し役員の方にもパンフレットや運営規定・重要事項説明書等の書類を配布し説明を行ない理解を得るよう努力している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>周囲の住宅と違和感のないような外観となっていて、花壇等を整備し、和やかな雰囲気づくりに努めている。又 近所を散歩したりして、顔なじみになるようにしたり、地域のご家族の花壇を見学したりしながら会話をしたりしている。今年は家庭菜園で収穫したぶどうをいただいたりした。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の町内会に入会し行事の案内をいただいたり、敬老会のお祝いをいただいたりしている。地域の行事にも参加して一緒に楽しんだりしている。又 町内の会館で「憩いの家」として、趣味の会が毎日のように行われているので、参加していこうと、職員間で検討している。</p>	○	<p>入居者が9名中6名の入れ替わりがあったため、ホームでの生活に慣れていただくのが生活の中心となったため、今後「憩いの家」への参加を行っていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域にある学校の学生方との交流を行ない、教育大の吹奏楽部による「あおぞらコンサート」を開催し、地域の方にも回覧板にて案内をして、一緒に楽しんでいただきました。地域の身体の不自由な方や、高齢の方等なかなかコンサート等に行かれないと、又の機会を楽しみにされている。さらに 法人代表が地域の民生委員となり、貢献できるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価及び外部評価の意義を理解し、外部評価の結果に基づいて、職員会議等で研修を行ったり、施設内の改善について検討を行ったりした。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>委員会のメンバーの日程調整等のためなかなか2月に1度の開催が困難ではあるが、委員会では、ホームの現状や問題点等話し合い、理解を得ている。ホームの行事時に合わせて行うこともあり、メンバー以外のご家族からも意見を聞く機会を得るよう努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>定例の報告を行ない、法令等を遵守しグループホームの意義・目的を見間違ふことなくサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域に事務所を構えている弁護士に相談したり、又必要と思われる家族には、必要性を説明し活用するよう支援を行っている。実際に2家族に説明し1家族は手続きの段階においても協力した。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止のパンフレットを配布したり、虐待防止のための事例集等で学ぶようにしている。</p>	○	<p>高齢者虐待防止関連法についての講習会等に参加を予定しているが、地元での開催がなく、地方での開催でも参加できるよう努めていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居される時に、入居者及びご家族に契約書や重要事項説明書等の文書を見ながら説明を行ない、理解を得ている。又 入居された後でも疑問等があった場合はいつでも対応をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に「利用者からの苦情を処理する為に講ずる措置の概要」を掲示している。さらに毎週契約看護師の方が訪問され、その時に一人ずつお話されご本人の状態を聴いていただくような機会を設けている。又 職員においても入居者の方と2人きりで会話のできるような時間を設け本音が話せるよう努力している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	普段の様子や健康状態については、面会に来所された時に職員より報告を行っている。金銭管理については、定期的に金銭出納長等のコピーと領収書を渡して確認の捺印をいただいている。職員の異動については、ホーム内に職員の写真を掲示し分かりやすいよう工夫をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に「利用者からの苦情を処理する為に講ずる措置の概要」を掲示している。入居される時に説明をし、入居者については、入居される方のみではなく、ご家族についても含まれることを説明している。職員と普段から気軽に話せるように、面会に来所された時等は積極的に職員から話しかけるよう努めている。ご家族から意見等があった場合、朝の引継ぎや職員会議等で話し合い、ご家族の意向に沿うようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回全職員が集まり職員会議を行っている。その時に意見や提案を発言できるようになっている。又 日常的にも聞いていて、必要な事項については、改善するよう努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な勤務の変化や交代に対応できるよう、職員の人数を人員基準以上に配置していて、入居者及びご家族の状況の変化に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員については、有給休暇を希望に沿ってとれるようになっていたり、勤務表作成にあたって、休日等について希望を取り入れる等、なるべく離職するような状態にならないよう努めている。新入職員については、一ヶ月程度は管理者と一緒に勤務に就くように配慮し、見慣れない職員のみで介助するような場面がないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>介助方法等について、職員間で不安事項と思われることは、職員会議で研修を行ったりしている。又 市内で開催される研修会等に交代で参加するようにしている。さらに 職員独自で参加する場合は勤務に考慮したりしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>北海道グループホーム協議会に加盟しており、道北ブロックにおいて開催される講習会等に参加し、地域の同業者との交流をはかっている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>毎日の勤務においては、休憩時間を交代で必ず取れるようにしている。職員の懇親会を行ったり、有給休暇を希望に沿ってとったりできるようにしている。又 急用や病欠の場合においても対応できる職員数を確保している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>法人役員が所長を勤めているので、日々の職員の努力や実績や勤務状況を把握している。又 上級の資格を受験する際にかかる費用についての助成金制度を設け、向上心を持って働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご本人が入所を希望されている場合等は、入所前に何度かご自宅を訪問し、お話を聴く機会をつくったり、関連するサービス業者に連絡をしたりした。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入所を希望された時点で、ご本人の状態やご家族の状況を良く聴いて、ご家族の事実認識や感情について知ろうとする姿勢に心がけて対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の訴えが必ずしもご本人の思いや気持ちと同一ではないことがあるので、かかりつけ医や入所前に利用していたサービスからの情報等を可能な限り集めアセスメントを行ない、必要としている支援を見極める努力をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な場合はご本人も一緒に見学していただいたりしている。	○	認知症対応型通所介護の指定を受けたので、今後は入所希望者については、デイサービスに通いながらホームの雰囲気に慣れていただけたらいい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	若い頃調理の仕事をしていた方から、調理について教えていただいたり、お裁縫の仕事をしていた方には、雑巾縫いや繕い物をしたりしていただいている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来所された時等に、率直に困っている事等をお話し、入所前に対応されていた方法を聴いたり、一緒に解決方法を考えたりしている。必要時には電話連絡にて相談・方向している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来所された際に、職員が積極的に近況報告を行ない、認知症による特異的な行動があった場合は、認知症についての説明を行ない、ご家族の誤解をまねかまいよう、努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ドライブレクリエーション等で、ご本人のご自宅へ行ったり、子どもさんのお宅へ行ったり、又 以前の職場の近くへ行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い入居者同士で食事ができるような席の配置にしたりしている。又 車椅子使用の入居者には、歩行のできる入居者が介助したり、行事等の写真をはったアルバムと一緒に見たりして、入居者同士が触れ合う機会が多くなるよう気を配っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された方のご家族の依頼により、希望する事業者を紹介したり、又 郵便物が届いた場合など、様子を伺ってお話を聴いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に生活歴等必要な情報をお聞きし活用している。又 入居者の希望や意向を職員が直接聞いたり、感じ取ったとき、他の職員にも伝え、日々の介助に反映するよう努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にご本人及びご家族より、生活歴等お聞きしている。又 普段の会話の中から聞いた事項については、他の職員にも分かるように記録用紙を用意している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	起床・就寝時間・食事を摂取した時間や量、一日の過ごし方等を記録に残し、申し送り時にも検討し、総合的に把握するように、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月の職員会議において、処遇会議も行ない、職員全員で課題について話し合いを行なっている。介護計画については介護支援専門員がご家族や担当者と話し合いそれぞれの意見を反映するような介護計画を作成するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入所前からのかかりつけの医療機関に、ホームの看護職員による定期受診のサービスを行っている。その都度担当医と相談したり、又急変があった場合等電話で相談したりしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入所者の方々それぞれに専門医又は、認知症に詳しい医師に定期的に受診を受けている。ホームの看護職員が受診の対応を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の管理者が准看護師の資格を持っている。又医療機関受診の対応の為に非常勤勤務の看護職員も准看護師の資格保有者である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入所者が入院した場合においても、病院からの連絡先はホームとしており、情報交換している。入院中においても、職員が病院に出向くようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人又はご家族の意向を確認している。又その意向に沿って支援できるよう、かかりつけ医等と密に連携を取っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や訪問看護師と密に連携し、又通院困難になった場合に備えて往診可能な医療機関を確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退所後の施設に介護・看護添書をお渡ししたり、ご家族からの希望があった場合、担当のケアマネジャーにご本人の情報をお話したりしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの特徴に合った会話や言葉がけを心がけている。プライバシーや自尊心に配慮して排便・排尿等の言葉がけや、傷つけない後始末に心がけている。人としての尊厳を傷つけるような言葉は絶対に使用しないよう周知徹底している。記録等の個人情報もなるべく人目のつかない所に保管している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの状態に合わせた会話や言葉がけを心がけ、コミュニケーション能力が向上するように努めている。又 食事の献立を雑誌等を見ながら職員と一緒に考え嗜好品を取り入れたり、余暇の過ごし方を選択したりしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床や就寝・食事等その方の生活リズムに合わせて、提供するよう努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節毎の洋服や下着等の購入についても職員同行にて買い物に出かけたりしている。理容院や美容院はご本人の希望があれば、望むお店にお連れする対応をしている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備において、野菜の皮むき・お豆の筋とり・もやしのひげとり等ご本人の好みや力に応じてしていただいている。又 食卓を拭いたり・おしぼりたたみをしたり役割としてしていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を望まれている方は、土・日曜日の夕食時に飲むように対応している。飲み物についても、一緒に買い物へ出かけご本人の希望に沿って購入している。その他の飲み物やおやつ等は、できるだけご本人が好む物を用意し、希望される時等に楽しんでいただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者それぞれの排泄パターンをチェック表を用いて把握し、それぞれの時間に応じてなるべくトイレにて排泄出来るようにこまめに誘導し介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日血圧・体温・脈拍・排便等の体調の調査を行って、又ご本人より体調の様子を聞いたりして、入浴のタイミングを考慮している。入浴は、脱衣から入浴・着衣まで一人ひとり介助を行い、その入居者の方のペースに合わせて行ない、入浴後は気持ちが良かったと満足していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	談話室のソファーに横になったり、夜間小上がりに布団を敷いて休まれたりして、入居者のその時の状態や状況によって休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の出来ること出来ないことを見極めながら、若い頃の職業や趣味を活かした役割や楽しみごとを取り入れている。例えば、菜園や花壇の作業、食事の準備の野菜の皮むき、おしぼりたたみ・雑巾縫い等		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人には高額でない額のお金を所持していただいて、買い物時等ご本人の希望する物を購入する介助を行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お天気の良い日は菜園や花壇の水遣りをする為戸外に出たり、近所を散歩したりしている。又 ホームの買い物時、職員と一緒に買い物に出かけるようにしている。戸外の歩行を望まない方には、ドライブレクリエーションを行ったりしている。さらに今年度より、読書の好きな方が入所されたので、希望する方々で市立図書館へ行き、好きな本を借りたりしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の職場へお連れしたり、戦没者慰霊祭に参加する等、ご本人の希望される場所へ出かける機会をつくっている。又 市内で行われている催し物等にも積極的に出かけたり見学したりしている。ご家族が病気でホームになかなか来られない時等、ご本人をご自宅へお連れしたりしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は子機を利用し、居室で利用できるようにしている。又 手紙についても、希望がある場合代筆し手紙のやりとりができるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人・友人等が来訪された際は、職員が積極的に入居者の近況をお話し、職員と来訪者が入居者中心の話題作りの提供が出来る様努めている。又 居室や談話室で入居者と来訪者がゆっくり過ごせるようお茶を出したりしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約書において具体的内容を提示し身体的拘束を行わないことを明記している。色々な危険が予想される場合は、職員会議や引継ぎ時等で、拘束しない方法を検討したりしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。出入りの多い場所には、センサーを設置し、心理的圧迫を与えていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールにて過ごされることが多い為、様子を把握し見守りし易い。夜間については、定時に巡回し、睡眠リズム等を記録し安全に過ごすことが出来る様配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の身体機能や物品への理解度を考慮しながら、一律に取り上げる事はしていない。危険な物は安全な物に変えていただくよう、ご家族に協力していただいている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員会議等で一人ひとりの状態について話し合い、全職員が同じ認識を持って取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員会議等において、看護職員の指導の元で行っている。入居者の状態が悪化し急変等が起こることが考えられる場合など、再度看護職員から、起こりうる急変状況を職員に説明し、対応の方法を周知するようにしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行っている。町内会の会議等で地域の人々の協力をお願いしている。	○	今後は、地域の方々と一緒に避難訓練をできるようにしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ベット上に立ち上がった時に転倒の危険が予想された入居者について、ご家族に説明し、マットのみにしたりした。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックの分析等や、ご家族からの面会時のご本人の見た目等、多方面からの情報収集により、変化に気づくようにしている。速やかに医療機関と連携し対応をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護職員が服薬管理を行っており、薬の目的や副作用・用法用量に等についても、会議等で説明している。又 変更等があった場合においても、引継ぎ等で、周知徹底するよう努めている。薬の説明書等を、職員がいつでも見て確認ができるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	看護職員の指導の元、良く理解している。予防の為 食事量・水分量の確認記録を行っている。又 排泄の確認と記録を行っている。食材料には、なるべく食物繊維の含まれているものをしよし、なかなか水分の摂ることの出来ない入居者の方には、好きな物を個別に摂っていただくようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後速やかに口腔ケアを行い、口腔内の状態によっては歯科医師の指導の元、歯ブラシを適切な物を使用している。義歯については、曜日を決めて入れ歯洗浄剤等で除菌を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量については、確認し記録を行っている。食事量が落ちてきている場合等は食事形態を変えたり、水分についても、ご本人の好みの物を個別に摂っていただくようにしている。又 飲み込みが困難になった方には、寒天ゼリーの番茶で摂っていただいたりした。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護職員の指導の元、職員会議等で行っていて、マニュアル等も備えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理担当者の指導の元、台所・調理器具等の衛生管理について周知徹底をしている。食材料については、職員が販売店に直接出向き、食材料の鮮度を確認しながら、購入をしている。購入後は速やかに、冷蔵庫や冷凍庫にいれている。生ものや半加工品等は、使用分のみ購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	周囲の住宅と違和感の無いような外観となっていて、花壇等を整備し、和やかな雰囲気づくりに努めている。玄関については、ご家族専用のスリッパ等を置いてもらい、ご家族も自分の家の様に感じてもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の箇所にはソファと小上がりがあり、小上がりで横になることで、安心感を持っていただけるようにしている。又 ベランダより菜園が見えるようになっていて、季節感を持っていただけるよう工夫している。家庭的な雰囲気を壊さないよう受付等のカウンター等は配置していない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の箇所には食堂やテレビ前の談話室・小上がりがあり、それぞれ思い思いに過ごすことができるようになっている。	○	小上がりをリホームして、共用空間の中に一人になれるような空間にする予定でいる。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所する際は、入所の為に新しい物を購入するのではなく、なるべく家で使い慣れている物を持ち込んでいただくようにご本人やご家族に促している。入居者の写真や若い頃の作品を展示したりしている。又 居室には、畳のスペースもあり、入所前畳に布団を敷いて睡眠をされていた場合等、そのようにしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員が必ず毎日居室のロスナイを使用し換気を行ない、掃除等必要があれば、窓を開けての換気を行っている。居間等についても、温度計や湿度計のチェックを行ない、対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内はバリアフリーであり、廊下・トイレ・お風呂等に手すりを設置している。物干しも折りたたみの物を用意していただき、出来る方はご自分で洗濯物を干せるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の各居室には、それぞれのネームプレートをかけてあり、トイレの表示も大きくしてわかりやすいような環境作りに努めている。又 職員全員が入居者の状態を常に把握し、解決できない問題については、その都度会議や朝の引継ぎ時に話し合っている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの前庭には、草花を植え水遣りをしたり、日光浴をしたり・車寄せの下で日差しが強い時期においても外気浴を楽しんだりしている。又 それぞれの行事においても利用している。裏庭では、樽での菜園をつくっており、車椅子の方でも、苗植えや収穫ができ楽しみにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ○②少しずつ増えている ○③あまり増えていない ○④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ○③職員の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ○③利用者の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ○③家族等の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 毎日を元気に過ごすためには、バランスの良い食事をきちんと摂れる事であると職員全員が考えています。その為には、入居者それぞれの好みを考慮したり、食事形態をその方々に合わせたものにして、安全に食事ができるように、毎日取り組んでいます。さらに、入居されている方々は食事に関することで生き生きと活動されるので、菜園を作り車椅子の方でも作業が出来るように工夫しています。又 地域の学生との交流を大切にしています。地域の高校生のボランティア・職場体験・実習生の受け入れを行ったり、教育大生によるコンサートをホームの前庭で開催し、地域の方々と一緒に楽しんだりしている。今年度より認知症対応型通所介護の指定を受けたので、さらに 地域の方々と交流を行っていきたいと思っています。